

実践記録（小3・社会科）

1 単元 はたらく人とわたしたちの暮らし・店ではたらく人

2 ねらい

個別学習で得た知識や考えを生かしながら、協働することを通して考えを見直し、考えを深めることができるようにする。

3 手立て

・ 根拠を明確にする活動

根拠を明確にするために「クラゲチャート」を活用し、考えに対する根拠を書き出しながら、考えを構築するようにする。

・ 考えを客観視して見直す活動

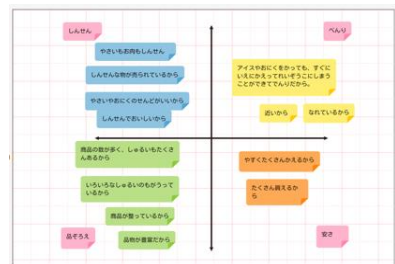
「クラゲチャート」を活用して構築した考えを、他者から「意見」「質問・疑問」を受けて見直すことを繰り返し行い、考えを再考しながら考えを深めることができるようにする。

4 指導計画

- (1) スーパーマーケットで働く人・・・1時間
- (2) 見学の準備・・・2時間
- (3) スーパーマーケットの見学・・・4時間
- (4) スーパーマーケットについて分かったことや考えたこと・・・6時間
- (5) コンビニエンスストアや大型専門店などで働く人の工夫・・・3時間
- (6) わたしの時間・・・2時間

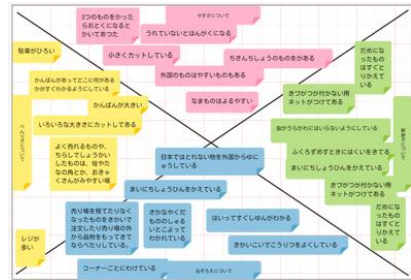
5 実践の様子

時数	主な学習活動
第1時	<p>(1) スーパーマーケットに行くのはどうして？</p> <p>保護者のアンケート結果を基に、お客さんがスーパーマーケットに行く理由について分類をした。分類されたことから、「安さ」「新鮮さ」「便利さ」「品揃え」の4つがスーパーマーケットに行く理由であることに気付くことができた。最後に、「スーパーマーケットは、どうして工夫しているのだろうか」という学習問題を設定した。</p>
第2時～第3時	<p>(2) 何を見学してこようかな？</p> <p>スーパーマーケットに見学に行くことを伝え、店内図を見ながら、分かったことや疑問に思ったことを付箋に書き出した。「大きな看板がある」「たくさんレジがあるよ」と分かったことを書き出したり、「どうして、野菜から並べられているのだろう」「裏でどんな仕事をしているのかな」など疑問を書き出したりすることができた。その後、書き出された疑問を基に、スーパーで見学場所や質問することを計画させた。</p>
第4時～第7時	<p>(3) スーパーマーケットの見学</p> <p>見学では、疑問に思ったことを近くの店員さんに質問してもよいことを伝えた。子どもたちは、計画以外の工夫を見付けると、「どうして、このような工夫をしているのかな。聞いてみよう」とすぐに聞いて調べる様子が見られた。また、普段見ることができない裏側の様子を見て、店内と服装が違ったり、見たことのない道具を使って仕事をしていたりしている様子を見ることができ、充実した見学になった。</p>



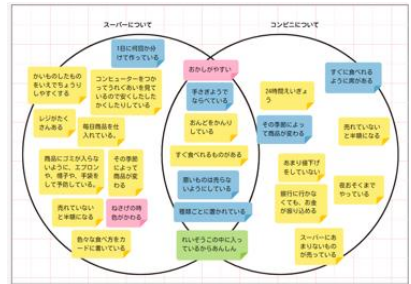
第8時
～
第13時

(4) 分かったことや見学したことから、スーパーマーケットの工夫をまとめよう
店内図や教科書から分かったことや見学をして分かったことなど、グループでXチャートに分類・整理していった。まとめられたXチャートを基に、スーパーマーケットはどうして工夫しているのかについて学級全体で話し合った。多くの工夫が発表され、スーパーマーケットにはたくさんの工夫があることに気付くことができた。最後に「どうして、こんなにたくさんの工夫をしているのか」について考えさせた。「品物売るため」「美味しいもの売るため」と次々に発表され、お客さんのために工夫していることに気付くことができた。



第14時
～
第16時

(5) コンビニエンスストアはどんな工夫をしているのかな？
コンビニの店内図を見て、分かった情報と、スーパーマーケットの情報を、ベン図を使って比較させた。コンビニは、品揃えや便利さが充実していることに気付き、目的に合わせて工夫されていることを理解することができた。



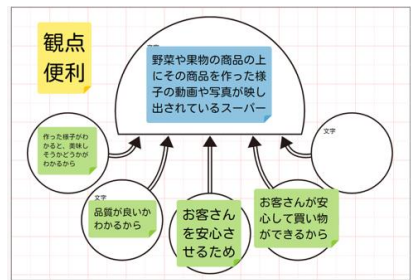
第17時
～
第18時

(6) どんな取り組みを行うとよいか考え、提案文を書こう
第17時では、「もっとお客さんが来るようにするためには、どのような工夫をするとよいか」について問い掛けた。「商品をもっと取りやすくするとよい。」「色々な場所の美味しい物売るとよい」「レジに並ばないようにするとよい」などの意見が発表され、児童は「どんな取り組みができるかもっと考えたい」という思いをもつ姿が見られた。その後、「これからのスーパーはどのような取り組みを行っていくとよいか。自分の考えとその理由について提案文に書き表しましょう」という課題を提示して学習の見通しをもたせた。

考えをもつ場面では、これまでの学習を基に、自分の予想とその根拠について「クラゲチャート」に書き出していった。その際、どうしてその取り組みが必要なのか、自分自身で問い続けながら根拠を書き出していくようにした。また、自分の予想がお客さんのためになるのかという視点で考えさせるようにした。

第18時では、クラゲチャートを活用して構築した考えをグループで交流する活動を行った。ここでは、飛躍した考えでないか、他の根拠はないのか、その根拠でよいのかについて、他者が「意見」「質問・疑問」を投げ掛け、それに答える形で交流するようにした。交流が進む中で、「そういう考えがあるのか」「理由が分かりにくかったな」などと、自分の考えに足りない部分があることに気付くことができた。

交流後、自分の考えに立ち戻り、交流したことを生かしてもう一度自分の考えを再考しながら提案文を書いた。その際、交流で得た意見は考えに本当に必要なのかを繰り返し自分自身で問いながら、客観的に見直すように声を掛け



「これからのスーパーはどのような取り組みを行っていくとよいか。自分の考えとその理由について、ていあん文に書き表しましょう。」
ていあん文
私は野菜の一生と見れるスーパーを見て
あんまりなほど安全かわかるとも思う
の俺も野菜にもって野菜を作っている人もめ
て野菜もいれりてんら居るし社会も考
るからでえ

	た。児童は、話し合ったことを基に、他者の意見を取り入れたり、根拠を書き直したりして、考えを書くことができた。しかし、他者の意見をそのまま取り入れる様子が見られ、考えを見直して提案文を書くことができず、考えを深めるまでには至らなかった。
--	---

6 成果と課題

- 根拠を明確にするために、「クラゲチャート」と活用したことによって、自分の考えとその理由を結び付けて考えることができ、考えをもつことができた。
- 他者から「意見」「質問・疑問」を受けることで、違う考えに気付いたり、自分の考えに足りないところに気付いたりすることができ、他者の意見を基に考えを見直して、考えを再考することができた。
- 交流して得た意見が、自分の考えに必要な客観的に見直す様子が見られなかった。そのため、他者の意見をそのまま取り入れる様子が見られ、考えを深めるまでには至らなかった。